

## 第25回ビジネスレジスターに関するウィースバーデングループ会合 結果概要 25th Meeting of the Wiesbaden Group on Business Registers

### 1 開催日

平成28年11月8日（火）から11日（金）まで

### 2 場 所

京王プラザホテル（新宿区）

### 3 会合の趣旨

本会合はビジネスレジスター（BR）、調査フレーム及び関連するトピックスに関し、参加各国の知見を共有し、国際比較の向上に資すること等を目的とした国連統計委員会の傘下で活動する国際的な専門家グループ（国連シティグループ）会合である。25回目となる今回の会合は日本（総務省統計局）がホスト国を務めた。

（東京会合website: <http://www.stat.go.jp/english/info/meetings/wiesbaden2016/index.htm>）

なお、今回は本会合と同時期に国連統計部（UNSD）と国連アジア太平洋統計研修所（UNSIAP）が共同で総務省統計局の協力の下、開発途上国向けのBRに関するワークショップを開催し、当該プログラムの一環として、同ワークショップ参加者（9か国10名）についても本会合に出席した。

### 4 参加者・参加国等（下線の国はワークショップ参加国を示す。）

47か国等（41か国・6国際機関）から77名が参加した。参加国等は以下のとおりである。  
オーストラリア、オーストリア、ベラルーシ、カンボジア、カナダ、中国、デンマーク、エストニア、フィジー、フィンランド、フランス、ジョージア、ドイツ、ハンガリー、アイスランド、インド、インドネシア、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、韓国、マレーシア、メキシコ、モンゴル、モンテネグロ、ミャンマー、オランダ、オマーン、フィリピン、ポーランド、ロシア、スロベニア、南アフリカ、スリランカ、スウェーデン、スイス、タイ、英国、米国（BLS）、ベトナム、欧州中央銀行（ECB）、欧州連合統計局（Eurostat）、湾岸協力理事会統計局（GCC-Stat）、国際取引主体識別子財団（GLEIF）、経済協力開発機構（OECD）、国連統計部（UNSD）

### 5 各セッション等の概要

#### (1) 開会挨拶

開会に当たり、原田憲治総務副大臣から御挨拶をいただいた。

#### (2) セッション1：カントリープログレスレポート

本セッションの議長はホスト国を務めることとされており、総務省統計局が議長としてセッションを運営した。本セッションでは、事前に各国から提出された各国におけるBRに関する進捗、今後の予定、主な課題等を記載したカントリープログレスレポート（CPR）のうち、「主な課題」について参加各国が順番に口頭で発表を行い、その後、総務省統計局が各国のCPRの内容を整理したサマリーを発表した。

#### (3) セッション2：BRの役割

統計の中核的な役割、利用者との双方向的なデータ提供、ビッグデータとの関係等、BRの新たな役割に関する各国の動向に係る事例が13か国等から紹介された。

#### (4) セッション3：行政記録/機関/単位

行政記録の選定、利用、品質評価、カバレッジ等に関し、適切な識別方法や行政記録提供者との協力方法等に係る事例が5か国から紹介された。

#### (5) セッション4：品質とカバレッジ

品質の測定、担保、カバレッジ等に係る事例が9か国等から紹介された。総務省統計局からは日本におけるBRの整備方法の見直しに関する発表を行い、オーストリア、英国、オランダ、フランス、デンマーク、ドイツからローリング調査における規模、調査員数、把握事項、小規模事業所等の把握方法等に関する質問、プロファイリングの実施規模に関する質問などがあつた。

#### (6) セッション5：テクノロジー

データ管理等に関する急速なICT革命が起きている現代における、より効率的なBRシステムや各機能の技術開発等について、データ収集・管理システムの新ツールや、データ管理の自動化、ICTの現代化によるBRの構築方法の変化に係る事例が6か国から紹介された。

#### (7) セッション6：ビジネスデモグラフィー及びBRからのデータ作成

データ収集コストや報告者負担の軽減に資するBRを用いた新たな統計作成に係るBRデータの整備や具体的な作成方法等に係る事例が6か国から紹介された。日本からは、菅教授（統計研修所客員教授・法政大学教授）がレストランウェブサイト情報との結合データを用いた地理的集計及びQGISを用いた鉄道沿線地域集計の事例に関する発表を行い、オランダ、インドネシアから具体的な政策への利活用方法、データ照合方法に関する質問があつた。また、米国からは「画期的な分析で大変参考になった」旨のコメントがあつた。

#### (8) セッション7：グローバルゼーション及びプロファイリング

先進国における経済のグローバル化、巨大で複合的な多国籍企業の経済活動の把握等の課題について、多国籍企業のプロファイリング、グローバルゼーションへの対応等に係る事例が7か国等から紹介された。

#### (9) 特別セッション：BRに関するガイドラインのフォローアップ

2015年（平成27年）6月に開催された欧州統計家会議（CES）において承認（endorsed）された「BRに関するガイドライン」について、各国における利用状況等を取りまとめの上、その要約が発表された。

#### (10) その他

ステアリンググループ（執行部）が作成したヴィースバーデングループの改定版のTOR（国連からの付託事項）について、日本がステアリンググループを代表して各国に紹介した。

### 6 ステアリンググループ会合（執行部会合）

本会合後に開催されたステアリンググループ会合では、慣例によりホスト国である日本が議長となり、本会合の総括や今後の取組、次回会合の開催国等について議論した。

### 7 その他

平成29年3月7日からニューヨークの国連本部で開催される「第48回国連統計委員会」において、日本から本会合の概要等について報告予定である。

（第48回国連統計委員会Website: <https://unstats.un.org/unsd/statcom/48th-session/>）

以上